

“高き志”をもったグローバルな「トップエリート」を育成



西武学園文理小学校



飛田 浩昭校長

2020年度の大学入試改革が目前に迫ってきました。現行の大学入試センター試験に変わり「大学入学共通テスト」が導入され、国語と数学には記述式問題が出題されます。そこで問われているのは「脱・暗記型」の学力、すなわち思考力と判断力、表現力です。さらに、英語では外部試験が活用され、「読む」「書く」に加え「聞く」「話す」能力、すなわちグローバル時代にふさわしいリテラシーが求められます。

こうした流れに先立って、「英語のシャワーで世界のトップエリートを育てる」をキャッチフレーズに、2004年の開学以来、先駆的な教育を展開し、優れた成果を収めているのが西武学園文理小学校です。「心」と「知性」「国際性」の3つを教育の柱に、未来を見据えた12年一貫教育を実践する同校の魅力について、飛田浩昭校長に伺いました。

国際競争が激化し、本格的なグローバル時代を迎える中で、次世代を担う子どもたちが将来、あらゆる場面で世界の人々と対等に伍していくには、深い「思考力」と的確な「判断力」、そして相手を説得できる「表現力」が不可欠です。こうした中、最高の学習環境と学習効果の高いカリキュラムデザインで「心」と「知性」「国際性」を培い、注目を集めているのが西武学園文理小学校（以下、文理小学校）です。

小・中・高12年一貫教育による 洗練されたカリキュラムデザイン

「本校は西武学園文理中学・高等学校とともに、12年一貫教育で21世紀を担う『世界のトップエリート』を育成することを教育の目標としています。そのため、イートン校をはじめとする英国のパブリックスクールを模範として、真のエリートに相応しい品性と豊かな知性・教

養、自由と規律の精神を培うことを教育の理念としています」と飛田浩昭校長は説明します。

これまで、上級学校の西武学園文理中学・高等学校は東大をはじめ、早慶など難関大学に多数の合格者を輩出する東京圏屈指の進学校として人気を集めてきました。

こうした中、2007年に文理小学校に入学した第4期生は初めて2名が東京大学現役合格を達成し、また横浜国立大学、東京外国語大学、千葉大学など4人に1人が国公立大学への現役合格を果たしました。医歯薬系では群馬大学医学部、防衛医科大学校、日本大学医学部、東海大学医学部、埼玉医科大学などに現役で合格を果たすなど昨年度を更に上回る結果を残しました。その快挙について、飛田校長は「児童・生徒の一人ひとりの夢をかねたという、小・中・高等学校12年間にわたる一貫教育が結実し、花開いたため」と語ります。

その原動力の一つが、文理小学校の代名詞とも言える「英

語のシャワーによる文理イマージョン教育」です。

小学校から高校まで12年一貫の系統的カリキュラムのもと教えられる英語は、無理なく、無駄なく実践的な実力を養成します。授業は日本人の英語教員と外国人英語講師によるチームティーチングによって進められますが、1年生から外国人の英語教師が話す自然な英語に親しむことで、耳と目、口、身体全体を使って語学力を習得することができるのです。

また、音楽や図工、体育といった教科も英語で行われるほか、登校時や休み時間、お昼清掃時の放送、そして児童集会やイベント時の司会なども英語を使用するなど、1日中英語に触れる環境を用意しています。

「文理イマージョン教育の狙いは、英語に対する抵抗感を低くすること。そうすると、自分の英語でコミュニケーションすることができるようになります。パティオ（中庭）を使っての朝会や、終業時の連絡事項なども英語で行うので、集中して聞かざるを得ないわけです」と飛田校長。その成果は、小学校在学中に英検3級以上を全員が取得、準2級、さらには2級までをも取得している児童が中学年にも数多くいることにも表れています。

さらに特筆されるのが、高学年で実施される文理小学校ならではの「海外研修」です。5年生にはイギリスの名門イートン校やケンブリッジ大学、オックスフォード大学などを訪れ、16日間にわたって、世界中の児童と英語で交流しながら共に学びます。また、6年生ではアメリカでホームステイを体験しながら、ハーバード大学やMITでレクチャーを受けるなど、小学生の域をはるかに超えた活動を



5年生イギリス短期留学～イートン・カレッジにて（上）/
世界各国のお友達と一緒に英語の勉強（下）



6年生アメリカ研修
ハーバード大学にて（上）/
現地校のお友達に日本文化を英語でレクチャー（右）

展開しています。この費用もすべて学費に含まれています。

「海外での体験を通して、子どもたちは初めて英語が世界中の人々とコミュニケーションを取るためのツールであることに感動します。それが学びへのモチベーションにつながっているのです」と飛田校長は語ります。

さらに特筆されるのが、1年生から学校に隣接した研修センターで1泊2日のイングリッシュキャンプを体験させ、4年生では北海道旅行で初めての飛行機やホテル泊になじませるなど、心と体の成長に合わせて宿泊研修を行い、自立と協調の姿勢を身につけさせていることです。常に集団で行動することで、リーダーシップの重要性に気づかせるとともに、その力を引き出し育てているのです。

「STEM教育」で理数系の力を育成 医学部を目指す体験実習も

AI（人工知能）が社会のさまざまなシーンで活用される時代においては、知識をいかに多く身につけるのではなく、「課題を発見し、問題解決のための知識を選択する力」と、「その知識を活用し、自らの頭脳で考え、行動に移す力」こそが求められます。

同校ではまず低学年において、学ぶことの「楽しさ」を体感させるために田植え、稲刈りや工場、商店街見学などの、フィールドワークに基づいたアクティブラーニングを多く取り入れています。そして、体験したことについては必ず記録にまとめたり、感じたことを書かせたりして、体系的な知識になるよう指導しています。また、本物の教育を目指し、さまざまな分野のプロをお招きしてお話し等をしていただく特別講義も実施しています。

教室ではコンピューター、プロジェクター、電子黒板を使用した独自の教材による授業も実施し、100%理解

12年一貫 第4期生(64名)の 大学合格実績(現役のみ)

2019年3月31日現在

**東京大学現役2名・国公立現役15名合格！
医歯薬系大学 現役13名合格！**

【国公立大学】15名／東京大学2名・北海道大学1名・防衛医科大学1名・群馬大学(医)1名・横浜国立大学2名 他

【医歯薬系大学】13名／防衛医科大学1名・群馬大学(医)1名・日本大学(医)1名・杏林大学(医)1名・ハンガリー国立大学医学部1名・埼玉医科大学1名 他

【難関私立大学】54名／慶應義塾大学・早稲田大学・上智大学・東京理科大学・中央大学・明治大学・立教大学・青山学院大学・法政大学・津田塾大学・東京女子大学・学習院大学

を目指しています。英語、情報の授業は1年生から6年生まで継続し、大きな成果を挙げています。

さらに、例えば算数では3年生から単元別に得意・不得意を考慮してクラスを編成した授業を実施するなど、全教科にわたって児童のモチベーションの向上に細心の注意を払っています。

なかでも、英語と並ぶ文理小学校のカリキュラムのもう一つの特徴が「STEM教育」(Science、Technology、Engineering、Mathematicsの略。科学、技術、工学、数学を中心とした教育)です。

「ユニークなのが、文理高等学校の理数科生を先生として招き開講するロボット・プログラミング講座です。鳥や恐竜などさまざまな自作ロボットを実際に動かすというもので、自分たちをサポートしてくれる高校生は児童にとって憧れの“未来の姿”。子どもたちの成長過程に、心理学というモデリングの存在であることが、小中高12年間による一貫教育の大きな強みといえるでしょう」と飛田校長。さらに、医学部進学を目指す児童の興味関心を引き出すために、埼玉医科大学総合医療センターでの医療体験実習などにも取り組んでいます。

日本人のアイデンティティを養い 教養ある「真の国際人」を育成

国際社会でリーダーシップを発揮できる人材となるためには、まず日本人としてのアイデンティティを確立させる必要があります。そのために、西武学園文理小学校では日本の伝統的な文化を正しく理解させることを重視し、礼儀・作法、マナーのほか、日本人として本来身につけるべきことの教育を実践しています。安心・安全に最大限に心を配り、廊下を通してすべての教室が見渡せるなど学校の「見える化」にも留意しています。さらに週1回、「思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。……性格に気をつけなさい、それはいつかあなたの運命になるから」といったマザー・テレサの話など、飛田校長自ら子どもたちの琴線に触れる講話を行うなど、温かみのある学校づくりに努めています。

小学校卒業後は、一定の基準を満たしていれば西武学園文理中学校に進学。中学では1年生から超難関国立大学・医学部への現役合格を目指す「特別選抜クラス」をはじめとした学力別クラス編成を整備。学力差がつきやすい英語や数学の授業は2クラス3分割という少人数で行うなど、きめ細かな指導により、将来の目標に合わせた「確かな実力」を養っています。

「本学では具体的な教育の目標を、『心を育てる』『知性を育てる』『国際性を育てる』の3点に設定し、日々の教育活動の中で実践しています。『世界のトップエリート』の育成を目指す本学の教育方針に賛同される皆様のお子様の入学を心よりお待ちしております」と飛田校長はメッセージを送っています。



創業者／理事長
佐藤 英樹

平成16年4月に開校して以来、「英語のシャワーで世界のトップエリート育てる」教育を続け、世界に向かって着実に歩んでまいりました。

西武学園文理小学校は「すべてに誠をつくし、最後までやり抜く強い意志を養う」教育方針のもと、「心を育てる」「知性を育てる」「国際性を育てる」ことを重点目標として教育実践を行っています。

人としての豊かな心、先人の知恵に学び創造する知性、日本人としてのアイデンティティをもって国際社会で活躍する力、これらすべてを身に付けて未来をリードすることができる人材＝世界のトップエリートの育成を目指しているのです。

子どもたちが将来、自分の能力を活かす場を世界に求め、グローバルに活躍できる力を身につけられるよう、学ぶ力を習慣化し、常に自らを進化させる意欲をもつよう指導し、保護者の期待や社会的要請に応えていくのが、西武学園文理小学校です。